

(別冊1) 令和7年度 熊本市エイズ総合対策報告書

令和7年度
各団体での取り組みについて

令和8年(2026年)4月

熊本市保健所 感染症予防課

各団体での取り組みについて

目次

令和7年度 熊本市エイズ総合対策推進会議 委員名簿

I 各団体における取り組みの実施状況について	1
II 各委員からのご意見	5

熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

令和8年3月1日現在

	構成	氏名	所属
1	学識経験者	まつした しゅうぞう 松下 修三	熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 特任教授
2		いとう たかし 伊藤 隆史	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
3		あきづき ゆり 秋月 百合	熊本大学大学院教育学研究科 准教授
4	保健・ 医療関係	えがみ きみやす 江上 公康	熊本市医師会 理事
5		さいとう ただつぐ※ 齊藤 忠継	熊本市歯科医師会 副会長
6		つかはら みゆき 塚原 みゆき	熊本市薬剤師会 理事
7		しまだ みきこ※ 島田 美樹子	熊本県看護協会 副会長
8		べつとう まな 別當 茉奈	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部役員
9	教育・ 青少年団体	まつした あきこ※ 松下 昭子	熊本県公立高等学校PTA連合会 理事
10		ふじた まりこ※ 藤田 真理子	熊本県私立中学高等学校保護者会 理事
11		すもと きよひと※ 須本 清仁	熊本市PTA協議会 常任理事
12		かたぶち みわこ 片渕 美和子	熊本市青少年健全育成連絡協議会 理事
13		たけした ちひろ※ 竹下 ちひろ	熊本県高等学校保健会 理事
14	人権擁護 関係	たきもと けいこ 滝本 恵子	熊本人権擁護委員協議会 人権擁護委員 企画担当
15		はまべ じゅんこ 濱部 純子	熊本市民生委員児童委員協議会 理事
16	企業関係	みずかみ けんせい※ 水上 憲誠	熊本商工会議所 総務部 総務企画課 課長
17	労働団体	いずみ ひであき 泉 秀明	連合熊本地域協議会 事務局長
18	報道関係	にしやま みか※ 西山 美香	熊本日日新聞社 編集局 地域報道本部 社会担当部 次長
19	ボランティア 団体関係	こうぞう	Safety Blanket 代表
20		いまさか ひろし 今坂 洋志	ともに拓くLGBTQ+の会くまもと 会長

※任期 令和6年8月1日～令和8年7月31日

I 各団体における取り組みの実施状況について

【学識経験者】

■熊本大学大学院生命科学研究部

1. 「思春期の身体と性の悩み Q&A」の作成（熊本市妊娠内密相談センター）
2. 尚綱高校学園祭でのエイズ・性感染症、生理や妊娠の悩みに関する相談ブース（熊本市感染症予防課・熊本市妊娠内密相談センターと合同企画）
3. 慶誠高校学園祭でのエイズ・性感染症、生理や妊娠の悩みに関する相談ブース（熊本市感染症予防課・熊本市妊娠内密相談センターと合同企画）
4. 熊本大学紫熊祭でのエイズ・性感染症、生理や妊娠の悩みに関する相談ブース（熊本市感染症予防課・熊本市妊娠内密相談センターと合同企画）
5. プレコンセプションケアの普及・啓発に関する動画作成にかかる調査協力（熊本県子ども未来課）

【保健・医療関係】

■熊本市歯科医師会

- ・会議終了後、他役員へ報告、情報共有した。
- ・会員へエイズ・STI 対策に関する取り組みをもっと周知していく。
- ・世界エイズデーには、事務局内にポスターを掲示した。

■熊本市薬剤師会

1. 学校薬剤師による中高校生への薬物乱用防止教室などでの啓発活動
2. 薬局での相談時、医薬品についての説明。
3. 薬剤師会研修会で情報の提供を実施

■熊本県看護協会

- (1) 12月の世界エイズデーには協会内に啓発のためのポスターを掲示した。
- (2) 熊本県看護協会では、熊本県全域を対象に小・中学生を対象に「性教育出前授業」を実施し、その中で、依頼校の養護教諭等と話し合い、発達段階に応じて「エイズ・STD対策」に関連した内容（自身の身体を大切にすること・性感染症予防・実態など）について講義を行っている。

⎵	小学校：11校	⎵	計 26校
	中学校：15校		
	高校：0校		
			(31回実施：同じ学校で学年別の実施有 延べ1,951人程受講（1月現在）)

内、熊本市内の小中学校からの依頼は3校であった。

令和5年度より小学校からの依頼が年々、増加傾向にある。

■熊本県栄養士会

栄養士会としての取り組みは特に出来ませんでした。感染症予防課から郵送して頂いた「世界エイズデーポスター」を、尚綱大学に掲示しました。

【教育・青少年団体】

■熊本市PTA協議会

各区より常任理事が集まる理事会にて、会議の報告を行いそれぞれの区で行われる会議内にて周知、啓発を行っています。

■熊本市青少年健全育成連絡協議会

今年度のエイズ対策推進会議で得られた情報を本協議会理事会で報告するとともに、エイズを含めた性感染症の現状について、協議会関係者に周知することを検討しました。感染症予防課の協力を得て、熊本市青少年健全育成大会参加者に、熊本市の性感染症の状況に関する資料を配布しました。また、協議会で3月に発行する「青少協だより」に性感染症に関する記事を掲載しました。（別添資料あり）。

理事会では、青少年における性感染症の実態が認識されていないことが分かり、驚くとともに、合同会議の参加報告を理事会で受けるだけでは関係の方々はその内容を伝えることは困難であったことをうかがい知ることができました。

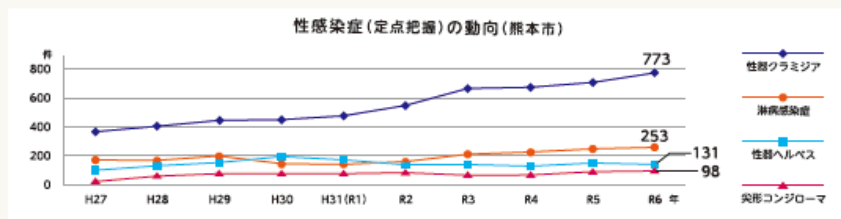
青少年を取り巻くSNS環境の悪化や性犯罪、性被害について、子どもたちを含め協議会内および関係者への啓発を継続する必要があることを確認しました。

(市青少協だより)

性感染症について自分のこととして知っておこう

ネット社会の中で、子どもたちも様々な情報にさらされ危険なものにも驚かっています。人と人が直接触れあう機会も増え、それによる性感染症について大人も子どもも正しく知っておくことが必要です。性感染症は粘膜、精液、唾液、唾液、皮膚などに含まれる病原体が人から人へ移って感染が拡がるもので、性風俗店に限らず、SNSによる出会い、パートナーとの性行為、性暴力などが感染の機会となります。クラミジア、淋菌、梅毒スピロヘータ、ヘルペスウイルス、HPV(子宮頸がんや咽喉頭がん、尖圭コンジローマなどの原因となるウイルス)、HIV(エイズの原因となるウイルス)などが含まれ、熊本市感染症予防課の報告では、熊本市内の性感染症の定点報告数は徐々に増加しており、10代の青少年もその中に含まれています。

どの子どもも安全であるという保証はありません。性的な接触の後の感染の不安や医療機関の受診などについて、相談できないことも多いのが現状です。治療の機会を失い感染が持続することで、将来の重大な病気や不妊、母子感染にもつながります。全国の保健所での無料・匿名の血液検査やインターネットで検査セットを購入する方法もありますし、感染が判明した場合は速やかに医療機関を受診しパートナーとともに治療に進むことが大切です。



出典：感染症発生動向調査事業

■熊本県高等学校保健会

- ・熊本市地区の養護教諭へ、対策推進会議の資料を提供し、各校で活用を呼びかけた。
 - ・世界エイズデーにちなんでポスターの掲示
- <各高校での取組内容について>
- ・3年生を対象に性教育講話を開催。
演題：「自分らしく生きる ～ライフデザインから考える性～」
講師：松元 かおり 様（NPO法人せいしとらんし熊本）
 - ・全校生徒を対象に講演会実施。
演題：「思春期の性と健康～性感染症から身を守るために～」
講師：平山泌尿器科医院 理事長 平山 英雄 医師
 - ・保健体育の授業の中で性感染症について取り扱った。
 - ・思春期保健講演会（1年対象）
 - ・教科「保健」授業及び、保健室からの資料提供
 - ・保健だよりで啓発した。
 - ・世界エイズデーに合わせてレッドリボンツリーを飾った。
 - ・せいしとらんし熊本の安田香織様（助産師・看護師）を講師にお迎えして、全校生徒及び希望の保護者を対象に性教育講演会を実施。
 - ・生徒及び保護者に性に関するアンケートを実施し、結果を保健の授業や講演会の内容に活用。
 - ・1、2年対象に性教育講演会を実施。慈恵病院院長 蓮田健先生の講演の中で性感染症について触れてもらった。
 - ・みやはらレディースクリニックの宮原先生に『あなたのこれからに役立つ「性」についてのお話』という演題で講演していただいた。こと」をテーマにご講話いただきました。

【人権擁護関係】

■熊本人権擁護委員協議会

- ・人権擁護委員の各専門委員会でパンフレットを配布する。
- ・現状把握してもらい、相談業務や人権教室、啓発活動に生かしていく。

【労働団体】

■連合熊本地域協議会

「機関紙 Now」10月号にて、組合員への周知活動を行っています。

◆◆本号では、標題の背景色にウクライナの国旗(上部青・下部黄色)の色を使用しています。

12月1日は、世界エイズデー

HIV感染症とは? AIDS<エイズ>とは?

本文※を参照ください

2023年末現在、HIVとともに生きている人は世界で約3,990万人

早期発見！早期治療★

熊本地協は、熊本市エイズ総合対策推進会議に委員を派遣！

①連合熊本地域協議会(議長:森田康昭)は、熊本市エイズ総合対策推進会議の委員として、泉事務局長を派遣しています。

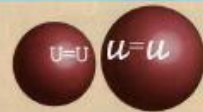
②この推進会議は、エイズに関する正しい知識の普及啓発のあり方を総合的に検討し、偏見や差別のない「健康と生命(いのち)」を大切にするまちづくりに寄与することを目的として、平成8年に設置されました。

③会議では、各委員が所属する団体における取り組みや、熊本市の現状につ

いて情報を共有し、それぞれの団体でのエイズに関する周知・啓発活動へとつなげる取り組みが紹介されました。

④熊本地域協議会としては、熊本市健康福祉局保健衛生部に依頼し、第96回メーデー熊本県中央祭典において啓発ブースを設置(右写真)し、エイズに関する啓発活動に協力しました。

⑤今後も、エイズに対する正しい知識の普及と啓発活動に積極的に取り組んでまいります。



U=U Undetectable = Untransmittable (U=U)

U=Uとは何ですか?

Undetectable = Untransmittable (U=U)とは、HIV感染者の血液中のウイルス量が検出されない状態を指します。

この状態では、HIVを他の人に感染させることができません。

12月1日は世界エイズデー

熊本市の性感染症(STI)感染情報

性感染症(STI)とは 性行為によって感染する病気の総称です。感染しても症状が現れないことが多く、病の人に感染させたり、産婦科で亡くなる原因のひとつでもあります。また、上記の症状も発症しなくても、感染することもあります。近年、全国的に感染者が増加しています。熊本市も同様です。

熊本市保健所に届けられるSTIは次のようになっています。

- ① HIV/AIDS (後天性免疫不全症候群)
- ② クラミジア感染症
- ③ 梅毒
- ④ 淋菌感染症
- ⑤ 生殖器ヘルペスウイルス感染症
- ⑥ 衣原体感染症
- ⑦ 単純疱疹

熊本市におけるSTI発生状況 HIV/AIDS(後天性免疫不全症候群)



2024年までの熊本市の報告例数は、男性29人、女性16人の計45人となりました。全国的な発生状況は2022年(14人)より増加しています。熊本県では、10月以降に発生例が報告されています。また、エイズを発生してからのHIV感染の潜伏期間が長くなり、エイズ発症が、全国平均(3年程度)と比較して約14年程度長くなっています。

熊本市保健所ではHIV(エイズ)検査結果を予約制で行っています。詳しくはHIV検査センターから

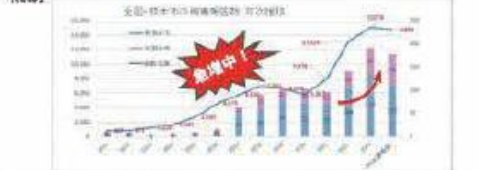
熊本市保健所 HIV検査センター

HIV検査とは? AIDS<エイズ>とは?

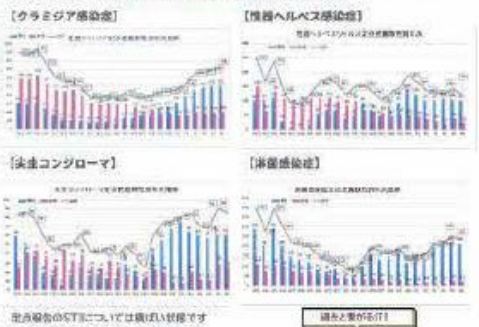
HIV感染症とは、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)に感染している状態を指します。HIVに感染すると、免疫力が徐々に低下し、さまざまな病気にかかりやすくなります。

HIVと進行性HIV感染(AIDS<エイズ>後天性免疫不全症候群)は同病種として扱われることがありますが、これらは異なるものです。進行性HIV感染は、HIVに感染して免疫力が低下した結果、日和見感染症や悪性腫瘍を1つ以上合併した状態のことを示します。

熊本市におけるSTI発生状況



2024年の全国の報告例数は、本邦初となった2011年以降2番目に多い14,809人となりました。2024年の熊本市の報告例数は178人となり、全体の報告例数の約1%に減少したものの、女性112名となり、女性の割合が約62%に達しています。



電子報告のSTIについては、検査の精度が向上し、検出率が高くなっています。また、検査の普及により、多くの人が検査を受けるようになったことが、報告例数の増加につながっています。

リスクの高い性行為は、予防接種や避妊具の使用などでリスクを減らすことができます。

性感染症についてご質問はこころへ 熊本市保健所 ☎494-364-3149

10/11: マッカーサーが特原首相に、憲法の自由主義化、婦人解放など6大改革を指示する。戦後初の企画映画「そよかぜ」が制作られ、並木路子が歌う「りんごの唄」が大流行する。10/16: 治安維持法などが廃止される。10/19: 駅名表示が左書きに統一される。10/20: 日本共産党機関誌「赤旗」が再刊される。10/21: フランスで、女性に参政権が認められてはじめての総選挙で、共産党が第1党となる。→P4

II 各委員からのご意見

【保健・医療関係】

■熊本県看護協会

(1) エイズ・STD対策全般について

“自身の身体を守る(大切にする)”、“相手(他者)の身体を守る(大切にする)”という観点で、中学・高校のみならず、低学年の時から、発達段階に応じて、自身の健康管理や相手を尊重した対応を行うことがエイズ・STD対策につながることを伝え、意識し実践できるような教育を行うことが必要だと考えます。

(2) エイズ対策推進会議について

最新治療情報として、治療を続けることで、感染リスクもほぼなくなることから、大学病院だけでなく、地域の医療機関(歯科医院)でも治療可能であること、また実際に熊本市の歯科医院で受け入れを推進されていることなど、熊本市での取組が進んでいることを知れました。また、LGBTQの当事者も出席されており、具体的な意見を聞いたことも、人権について改めて考えるきっかけとなりました。熊本県では県全体としての取組の報告があつていますが本会議では市独自の取組について検討し、さらに深めて、啓発活動を推進していただければと思います。

【教育・青少年団体】

■熊本県公立高等学校PTA連合会

(1) エイズ・STD対策全般について

学校において性教育の主要なテーマとして扱われていると思います。その情報を広報誌等で保護者に伝えてほしい。(家庭で話題になればよいと思います。)

(2) エイズ対策推進会議について

各関係団体に推移、現状(発生件数等)を情報提供してほしい。

■熊本市青少年健全育成連絡協議会

(1) エイズ・STD対策全般について

学校教育、家庭教育、地域における青少年育成のいずれにおいても、指導に当たる大人がエイズを含めた性感染症に関する正しい知識を得ておくことが、予防の第一段階として重要なことです。その知識がそれぞれの組織の中で共有されることによって、子どもたちを性感染症から守ること、子どもたちが自分にも起きることであると理解し対処できること、大人のできる具体的な支援が実行できることなどが実現できるようになると考えます。一般の方々向けにも、性感染症を含む感染症予防の啓発を継続的に実施していただきたいと考えます。

(2) エイズ対策推進会議について

「エイズ総合対策推進会議」の名称の変更は困難であるようですから、HPV感染を含む性感染症全般に対する取り組みとして継続することであれば意味のあることと

考えます。また、感染症予防課からいただく熊本市の現状報告については、全国的な報告と併せてお知らせいただければありがたいです。

(3) その他

第 39 回日本エイズ学会が熊本市で開催されましたが、市民公開講座について、その内容と、特に一般市民の参加状況について、ご報告いただけるとありがたいです。

■熊本県高等学校保健会

(1) エイズ・STD対策全般について

- ・生徒がよく利用する SNS などをもうまく活用して啓発をしてほしい。
- ・高校生の間、毎年（全学年で）1 回は性教育講演会が開けるように、県と市の関係課で講演会予算を組んでいただけると教育の効果が上がると思う。（講師が足りないと思いますが）※性教育の範囲は広いので、性感染症・性的同意・命の大切さ等主題を置いた講演会ができると良いなと思います。
- ・高校では性教育の時間を特設することは難しく、性教育講演会の時間を設ける程度です。性教育でも昨今は LGBTQ についてもふれ、内容が盛りだくさんです。生徒がさっと読めるリーフレット等があると助かります。
- ・検査機会の充実や、啓発のための工夫をしていただいております。感謝しています。高校生～大学生世代への教育の機会を確保できるよう努めたいと思います。
- ・熊本市の感染症予防対策課の方に講演をしていただいた際、熊本市の性感染症の最少年齢等も話されました。生徒たちも身近な問題として捉えることができたので、実態を知れる機会は大切だと感じました。

(2) エイズ対策推進会議について

- ・エイズ、性感染症の最新のデータや取り組みを知ることができ、自分たちにできることや、新たな取り組みについて考えることができた。
- ・会議の資料を各学校で活用している。

【労働団体】

■連合熊本地域協議会

(1) エイズ・STD対策全般について

引き続き、熊本市の現状について情報を共有したい。

(2) エイズ対策推進会議について

引き続き、熊本市の現状について情報を共有したい。

(3) その他

次年度も対応が可能であれば第 97 回メーデー熊本県中央祭典 2026 年 4 月 29 日(水)でブースの設置を依頼したい。